

令和2年度 中央区立佃島小学校 外部評価報告書

外部評価委員：

報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和3年3月

1 重点目標の評価

重点目標1 「子どもたちの『学力向上』に努める」について

○教員への設問1「分かりやすい授業を目指していますか。」に対して96%が達成していると回答しているが、保護者は72.8%が達成していると回答している。この設問1は、教員への設問は「分かりやすい授業」、保護者への設問は「意欲・関心を引き出す授業」であり、設問の内容が異なる印象を受けるため設問の文言を検討する必要がある。また、この21%の数値の差について、教員の取組の実態、保護者への説明方法、児童の現状など、多様な点から分析・考察し、なぜこのような差が生じたのかを明らかにし、課題となる問題点を整理し次年度への改善策につなげることが重要である。

○教員への設問2「評価規準を明確にした授業づくりを行っていますか。」に対して80%が達成していると回答、20%が改善を要すると回答している。保護者もほぼ同様の数値である。毎時間の授業を充実させるための授業改善を今後も継続することが求められる。

重点目標2 「子どもたちの『人間性・社会性』を育む」について

○教員への設問2「『主体的で対話的な深い学び』を目指した授業づくりをおこなっていますか。」に対して64%が達成、36%が改善を要すると回答している。今年度から新学習指導要領に基づく新しい教科書を使用した授業が実施された。「主体的で対話的な深い学び」は新学習指導要領の授業づくりの根幹である。教員36%が改善を要すると回答した実態を分析・考察し、教員が何を対象にどのような視点から評価したのかを明らかにすることが求められる。校内研究や各種の研修を通して、教員の改善策を明らかにすることが重要である。

○教員への設問1「『よいこのやくそく』に基づく指導の徹底を行っていますか。」に対して76%が達成していると回答し、24%が改善を要すると回答している。保護者もほぼ同様の数値である。基本的な生活習慣をはじめ学校生活の基本の定着は学力を支える大きな力といえる。発達段階に応じた指導を繰り返し徹底することが重要である。

重点目標3 「子どもたちの『心と体の健康づくり』をすすめる」について

○教員への設問1「挨拶運動をして、児童は挨拶ができるようになっていきますか。」に対して36%が達成、64%が改善を要すると回答している。しかし、児童アンケートでは約90%が達成と回答している。挨拶は基本的な生活習慣を支える力であり、学校生活や人間関係づくりの基本である。教員と児童の評価の差は大きく何に起因するのか明らかにする必要がある。教員の指導の実態や児童の振り返りの方法など多様な視点からの分析・考察が求められる。

2 今後の改善に向けた意見

○今年度、学校はコロナ禍で様々な制限や細心の配慮のなかで教育活動を実施してきた。全校で取組んだ1年間の成果を分析・考察し、次年度の教育活動に生かすことが大切である。取り組みの成果を教員、保護者、地域の方々が共有し次年度の活力にすることを期待したい。

○児童アンケート全体評価4「先生は悩みなどについて話しやすいですか。」に対して、70.9%が達成、29.1%が改善を要すると回答している。全校児童数約770名のうち約230名が改善を要する、と回答している。学校はこの数値に着目しこの数値の実態を把握することが重要である。学級経営の在り方、授業づくり、児童との信頼関係の構築など、学校教育を支える教員の指導力の向上に向けた取組を期待したい。

3 その他の意見

○年度始めに作成した「令和2年度佃島小学校における重点目標」の評価指標の順序と教員・保護者に実施したアンケートの設問の順序が異なっており、整合させると理解しやすい。